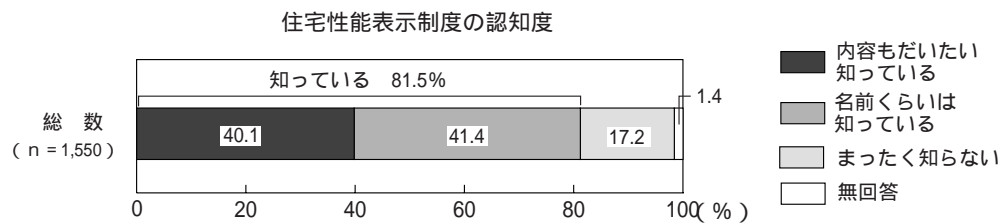


# 平成 14 年度住宅市場動向調査（住宅性能表示制度アンケート）結果の 主要なポイント

## 住宅性能表示制度の認知度

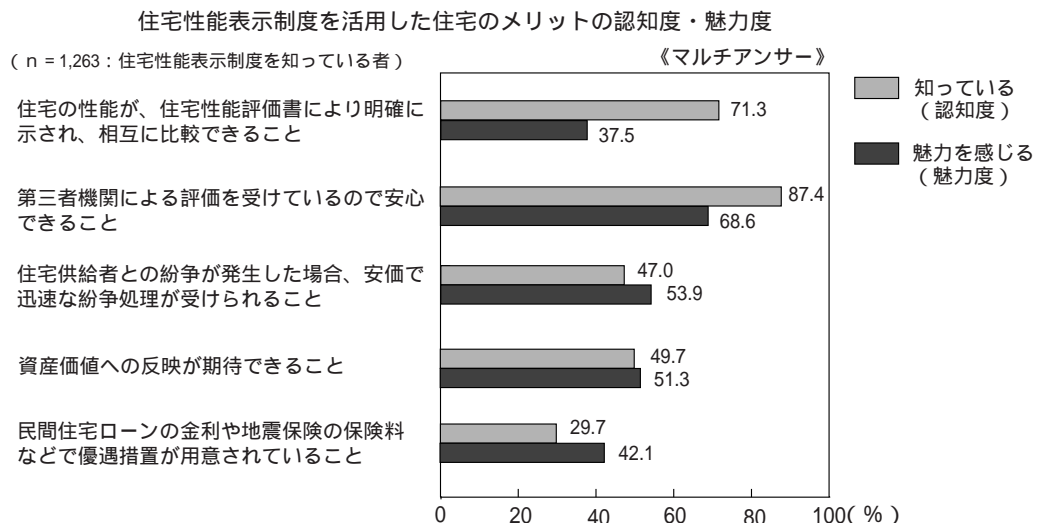
約 8 割の居住者が、住宅性能表示制度を知っている  
（内容もだいたい知っていると答えた居住者は約 4 割）



## 住宅性能表示制度を活用した住宅のメリットの認知度・魅力度

約 7 ~ 9 割の居住者に、評価内容の信頼性が高いこと、住宅の性能が相互比較できることが住宅性能表示制度のメリットであると認識されている

「評価の信頼性」と「性能の相互比較が可能」というメリットは、魅力度に比べて認知度の方が高く、「民間ローン等の優遇措置」と「安価な紛争処理が利用可能」、「資産価値への反映に対する期待」というメリットは、認知度に比べて魅力度の方が高くなっている

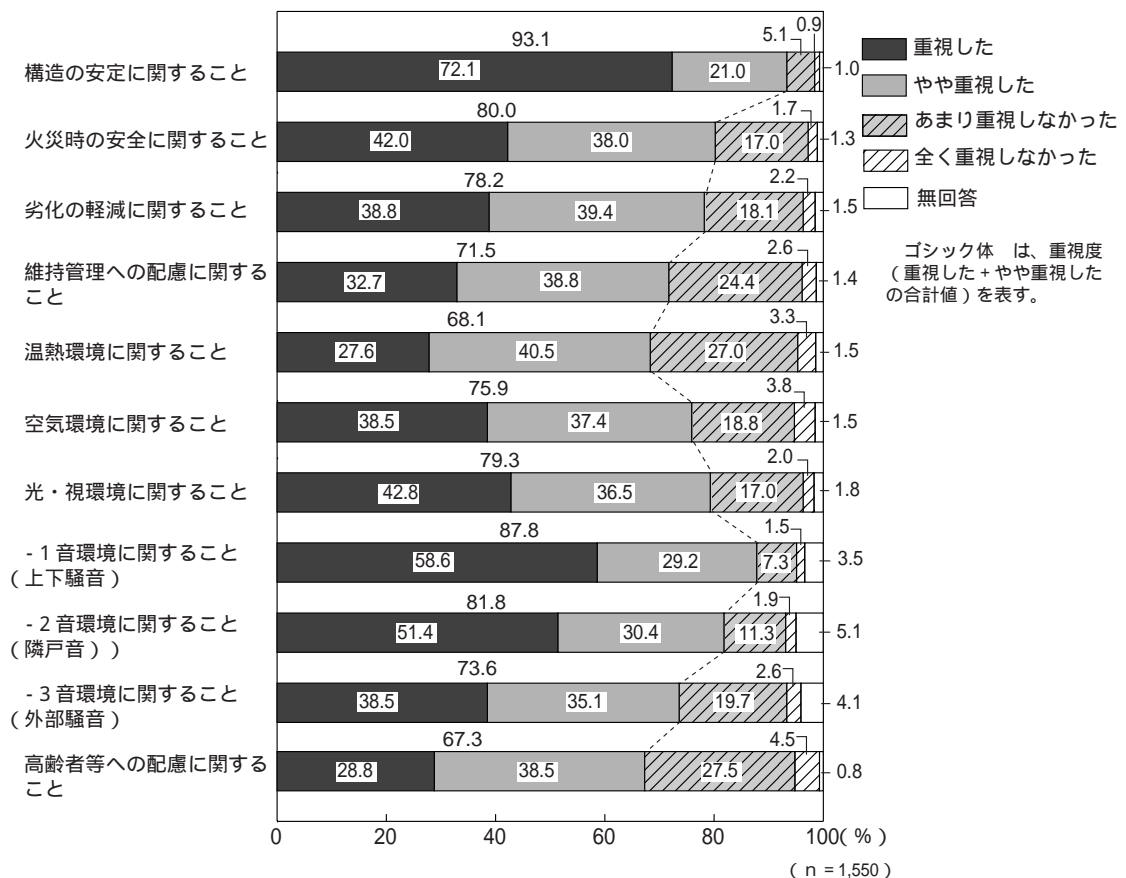


## 現在の住宅を取得した際の性能項目等の重視度

ほとんどの性能表示項目について、約7～9割の居住者が、現在の住宅の建築又は購入時に重視した項目としている

重視度が最も高い項目は「構造の安定に関すること」であり、最も低い項目は「高齢者等への配慮に関すること」となっている

現在の住宅を建築又は購入した際の性能表示項目の重視度

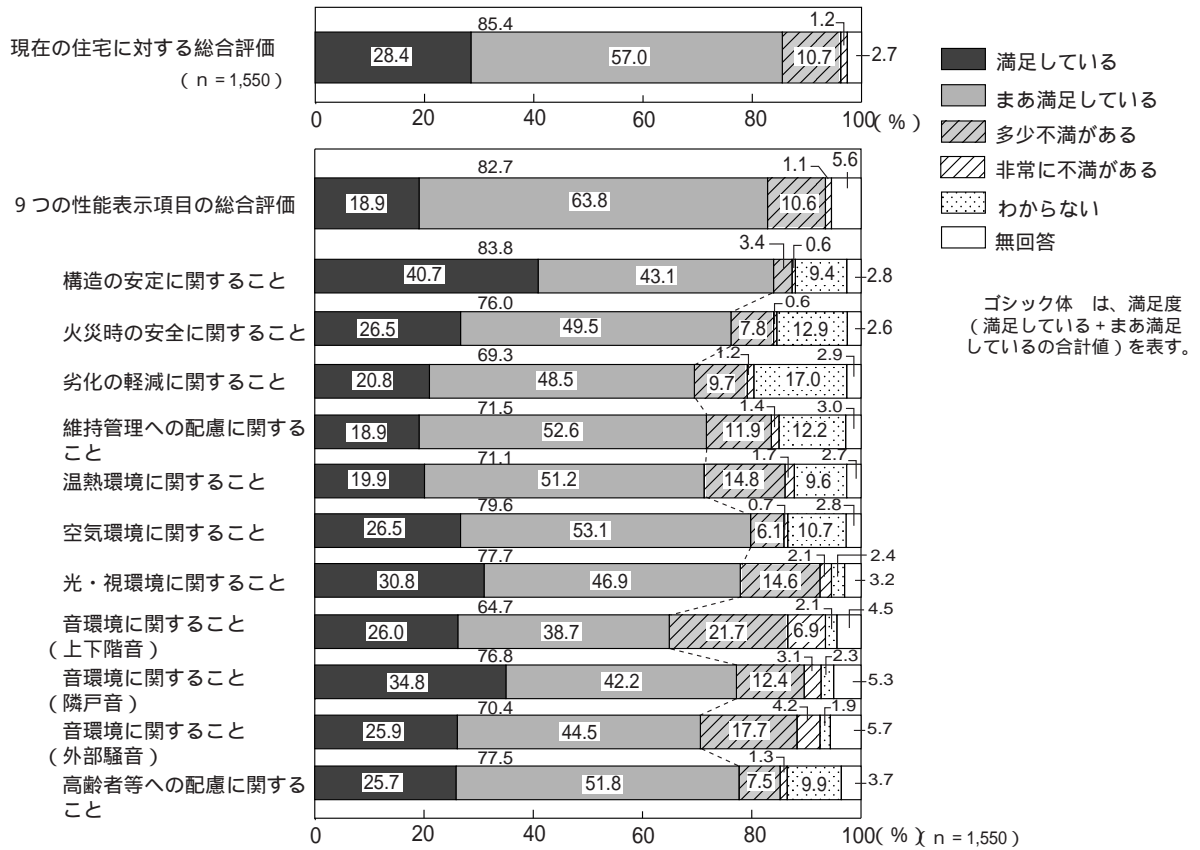


## 現在の住宅に対する満足度

現在の住宅に対する総合評価について、約3割の居住者が「満足している」と答え、「まあ満足している」とあわせると、約85%の居住者が現在の住宅に満足感を抱いている

9つの性能表示項目の総合評価は、現在の住宅に対する総合評価に比べて低くなっている  
ほとんどの性能表示項目について、約7～8割の居住者が、現在の住宅の性能表示項目に満足感を抱いている

現在の住宅に対する満足度



【注記】

図中の構成比に関する数字は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点以下第1位までを有効数字として表章した。

したがって、構成比の合計数字が100%とならない場合がある。